

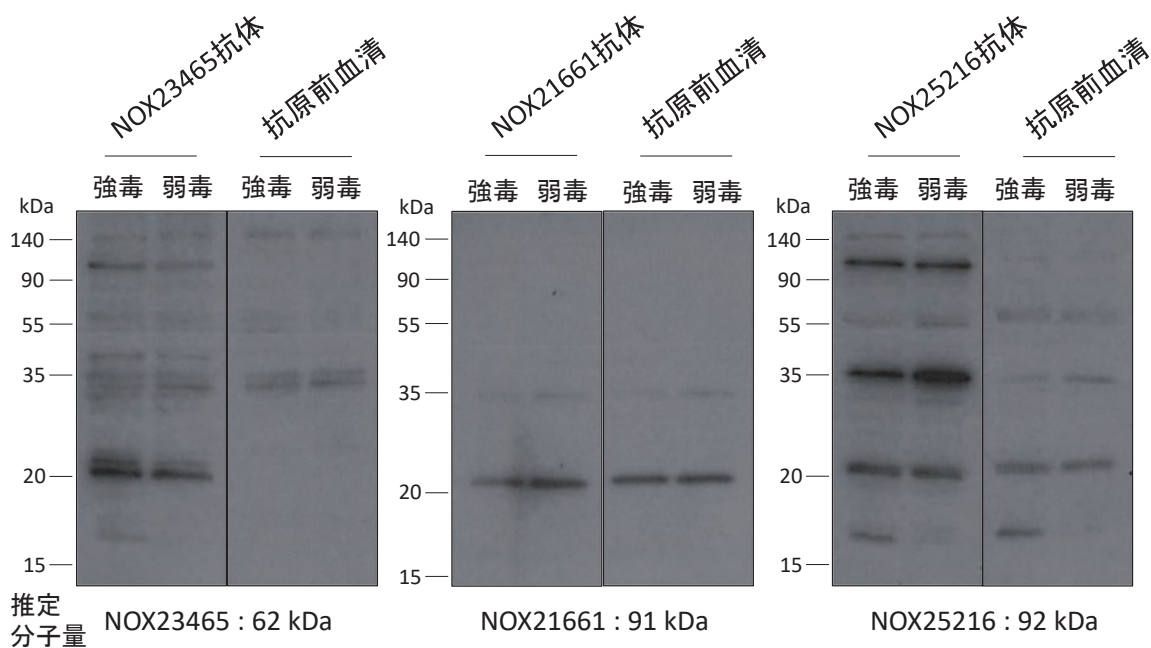


図 10. ウェスタンブロッティング法による NOX の検出と抗原前血清を使用した抗体特異性の検査. それぞれ 1 レーン当たり 3 μ g のタンパク質を泳動した.

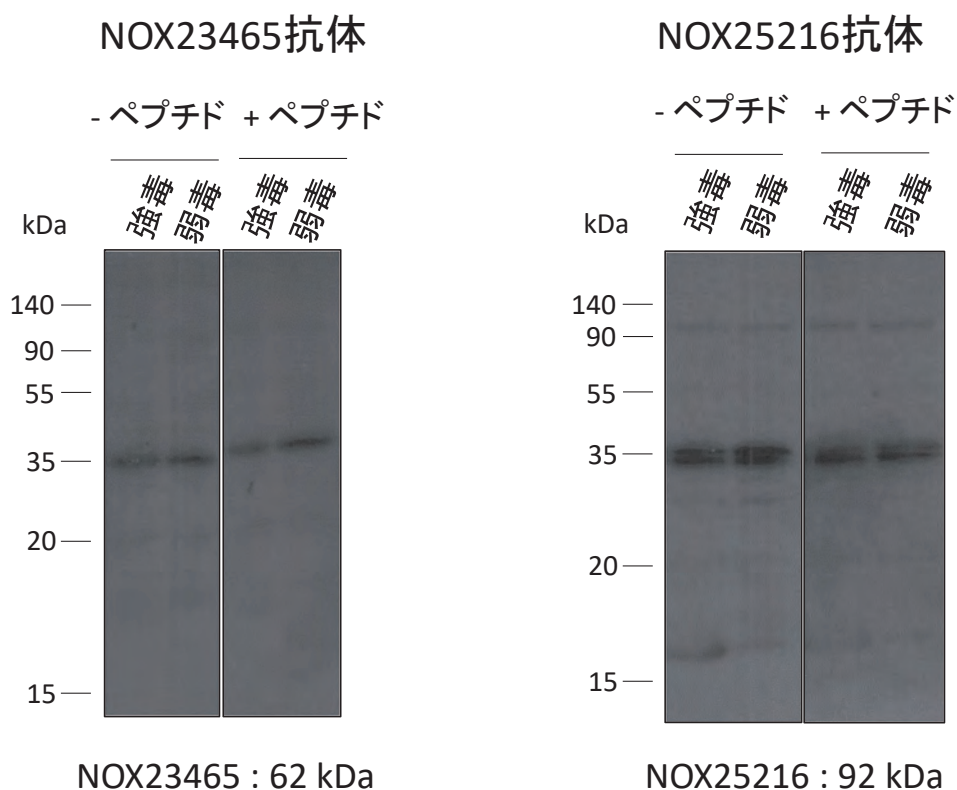


図 11. 抗原ペプチドによる抗体のブロッキングを利用した抗体特異性の検査. NOX 抗体: 抗原ペプチド=1: 20 mol になるように混合した. それぞれ 1 レーン当たり 5 μ g のタンパク質を泳動した.

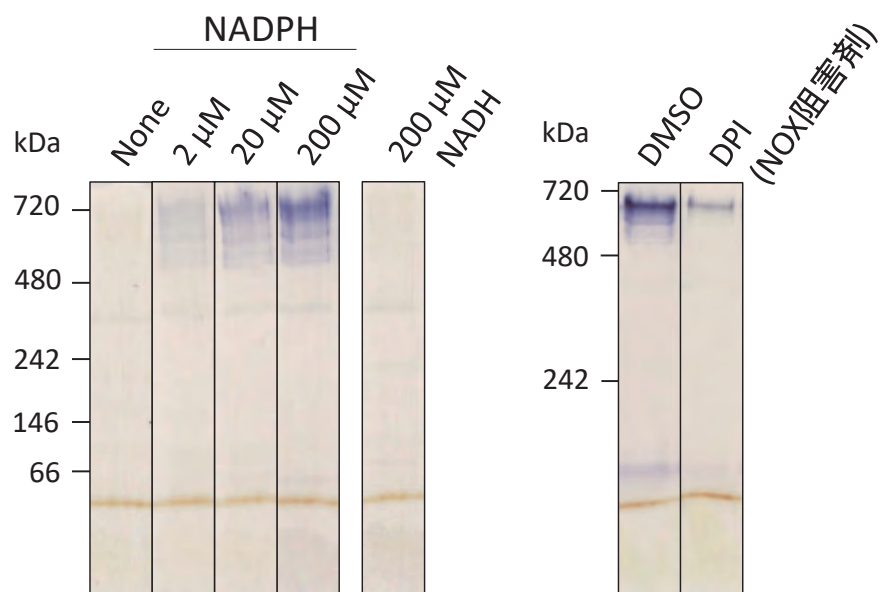


図 12. アクリルアミドゲル中における O_2 産生活性の検出. それぞれ 1 レーン当たり 3 μg のタンパク質を Clear Native-PAGE により分離した.

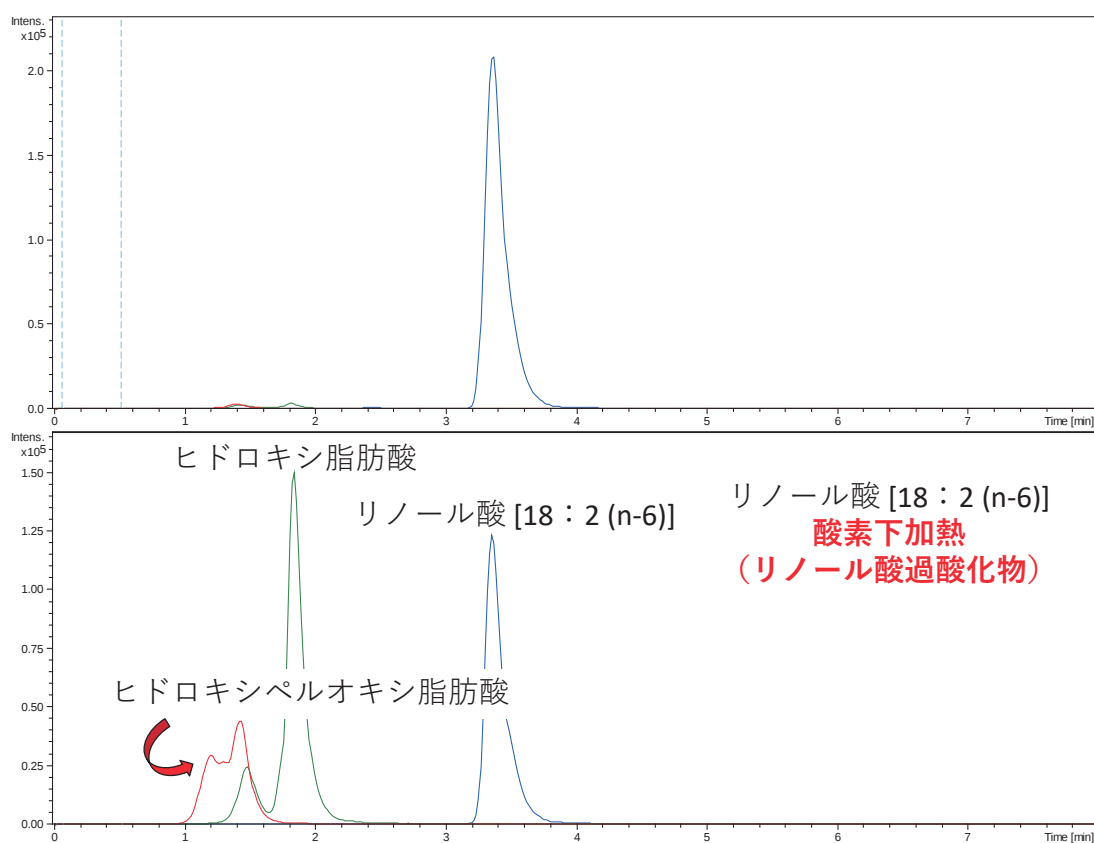


図 13. LC/QTOF 分析による過酸化脂質分析 (抽出イオンクロマトグラム).

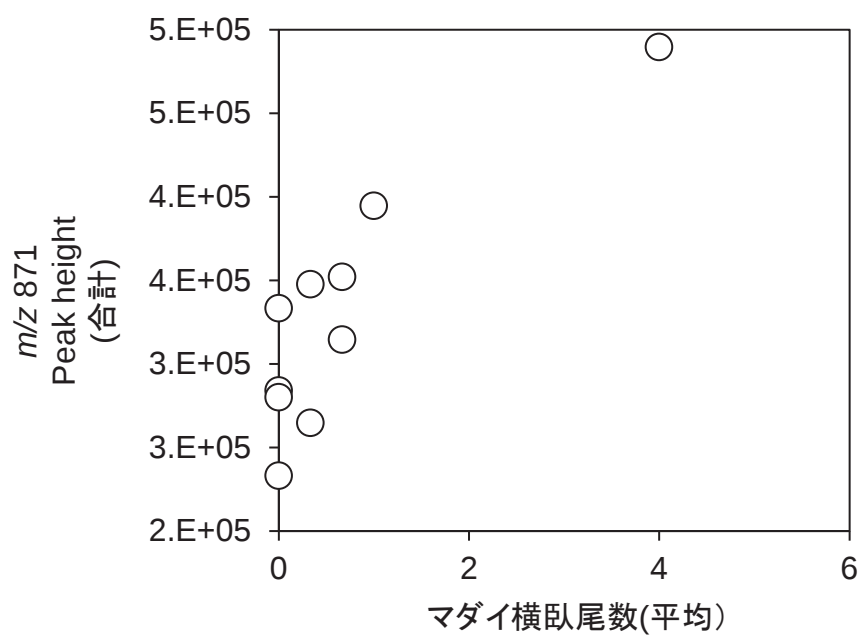


図 14. *K. mikimotoi* の魚毒性と m/z 871 の化合物との量的関係.

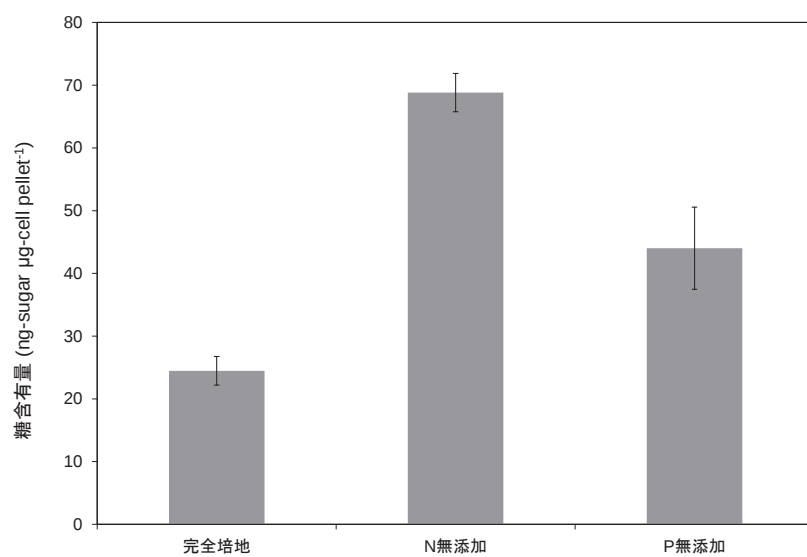


図 15. 異なる栄養条件下における *Chattonella* の糖含量.

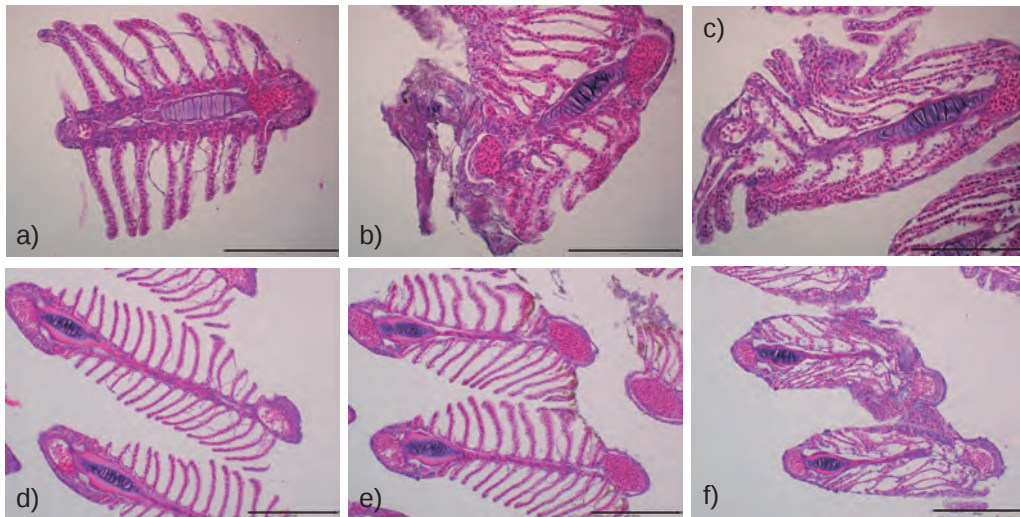


図 16. *Chattonella* (b, e) および *K. mikimotoi* (c, f) を曝露したマダイ (a-c) およびブリ (d-f) の鰓組織像. a, d はコントロール. スケールバーは 200 μm .

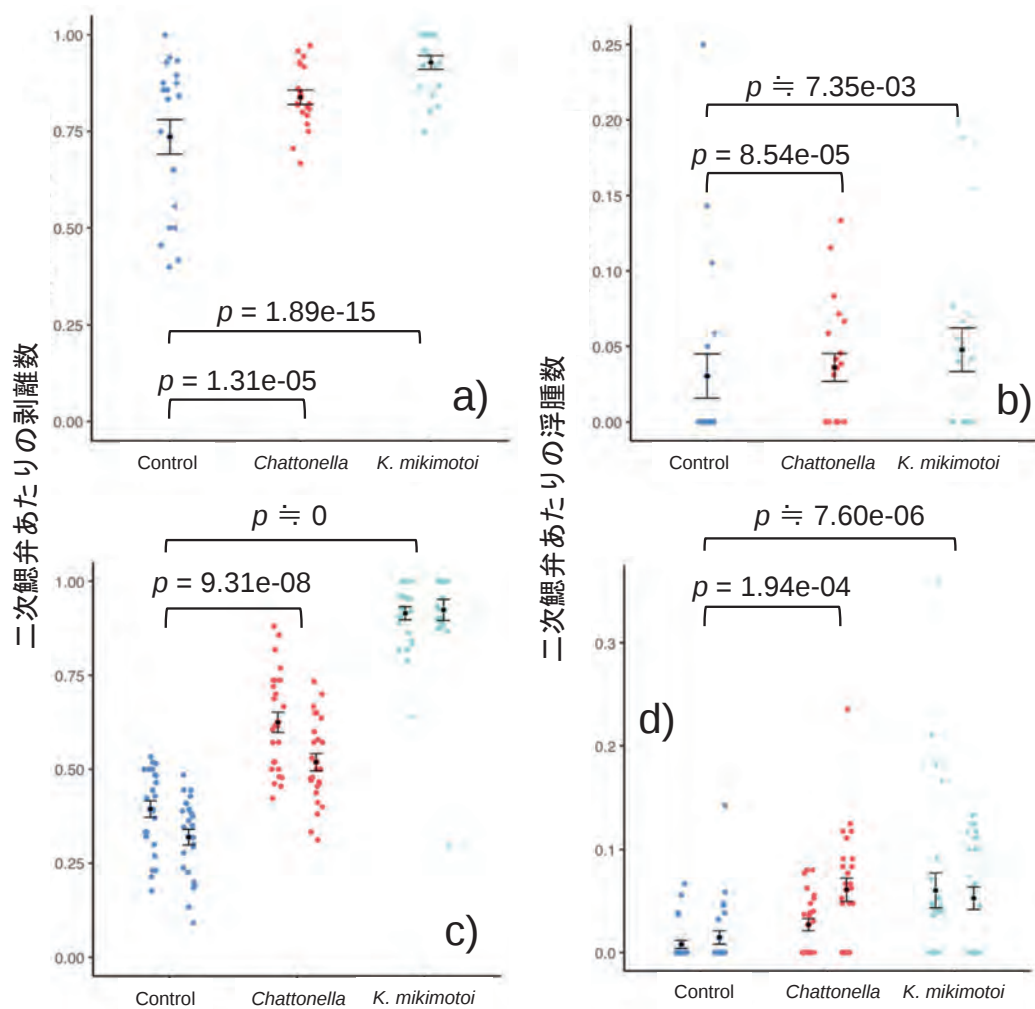


図 17. コントロール, *K. mikimotoi* および *C. antiqua* を曝露したマダイ (a-c) およびブリ (d-f) の鰓病変数とコントロールとの比較.